

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第37週（9月13日～9月19日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

「手足口病/ヘルパンギーナ増加」

第37週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は907例であり、前週比5.1%減であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ2.24、0.55、0.44、0.36、0.35である。

感染性胃腸炎は前週比13%減の444例で、南河内3.63、中河内3.30、北河内2.96、大阪市南部2.56、堺市2.47であった。

RSウイルス感染症は21%減の108例で、南河内1.31、大阪市北部1.29、北河内1.23である。

手足口病は40%増の87例で、北河内1.23、大阪市北部1.14、堺市0.53であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は1%増の71例で、中河内1.20、大阪市南部0.39、大阪市北部0.36である。

また第6位であるがヘルパンギーナは40%増の56例(定点あたり報告数0.28)で、大阪市北部1.43、大阪市西部0.50、中河内0.45となっている。

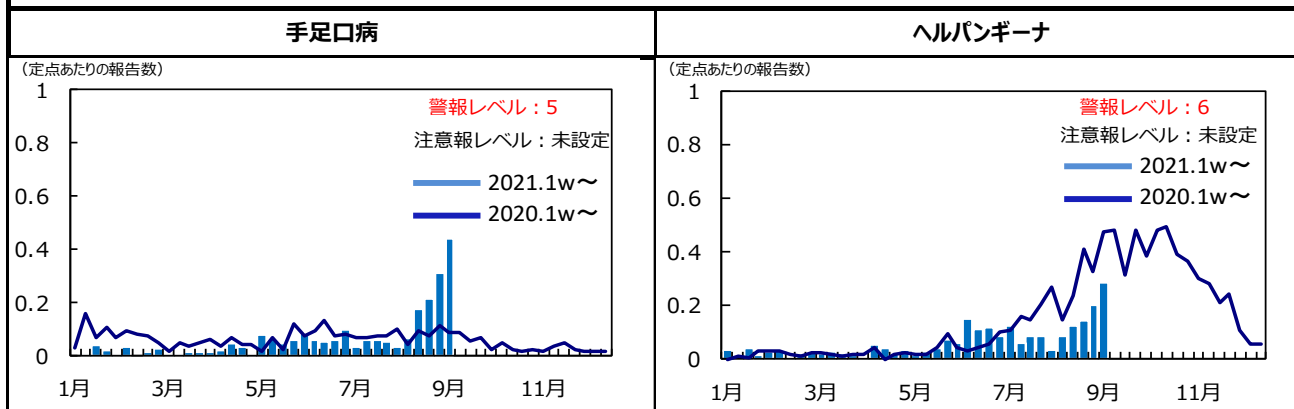


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第37週9月13日～9月19日）

第37週の順位	第36週の順位	感染症	2021年 第37週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第37週の 定点あたり 報告数	2021年第37週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.24	13%減	2.12	1歳_20%
2	2	RSウイルス感染症	0.55	21%減	0.01	1歳_35%
3	5	手足口病	0.44	40%増	0.09	1歳_47%
4	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	1%増	0.58	10-14歳_17%
5	4	突発性発しん	0.35	増減なし	0.48	1歳_61%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	増減なし	0.00	

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第37週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

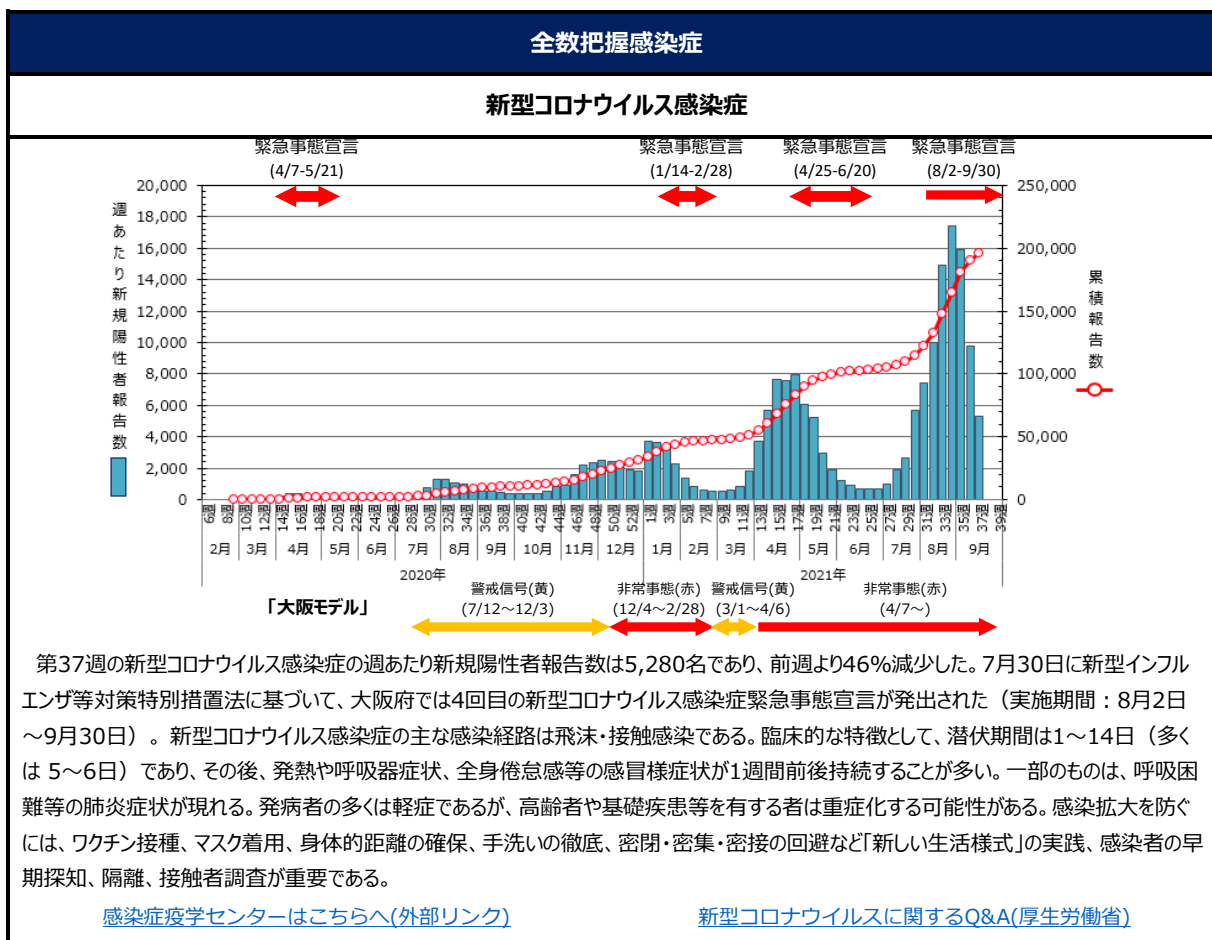


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第37週9月13日～9月19日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ「週報」発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6			1	3			1	1	132
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2	1							1	94
5類感染症	ウイルス性肝炎	1				1					12
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	2	1	1						122
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1					24
	後天性免疫不全症候群	1								1	66
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1								1	14
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1							1	70
	梅毒	8				1	1			6	532
	播種性クリプトコックス症	1								1	5
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1					1				17
百日咳	2			1					1	22	
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	5,280	2020年1月以降累計								195,774
結核 (2021年7月分)	結核 新登録患者数：101名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 37名) (府内累積報告数 665名、内 肺・喀痰塗抹陽性 240名)									

(2021年9月21日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。